個人山行

北アルプス：水晶岳、鷲羽岳

◆日程　　2020 年 8 月 3 日（月）～6 日（木）
◆メンバー　L：OY

例年通り夏休みがお盆期間とずれており、会の夏合宿には参加ができないため、個人でのテント泊縦走を考えていた。コロナ禍で営業を行わない山小屋なども出ていたが、北アルプスの山小屋は 7 月中旬より営業を開始するとの情報により、今回の計画を実行することとした。当初は新穂高温泉から入山し、鷲羽→水晶→雲ノ平→薬師→黒部五郎→双六の周回コースを考えていたが、約半年ぶりの縦走となり体力的不安もあったため、双六→雲ノ平→水晶→鷲羽を回る 3 泊 4 日で組み立てた。

8 月 3 日(月)　天候：曇り

前日は 20 時頃に新穂高温泉に到着し、深山荘で汗を流したのち車中泊をしたため、睡眠時間は十分である。曇り空ではあるが、雨が降りそうな空模様でもない。早々に準備し駐車場を後にする。装備は軽量化を心がけたが、コロナの影響で小屋の食堂営業などに不安があったため、1 日 3 食分を詰め込んだ。ザックは出発前の計量で 18kg 程度であったが、行動食や水を追加して 20kg 程度と予想された。

わさび平小屋までは舗装路と砂利の林道歩きとなるが、整備された緩やかな道のりのため、ほぼ予定通りに到着した。丸太をくりぬいた水槽で冷やされている、リンゴ、スイカ、トマトなどが美味しそうであるが、帰りにとっておくこととして先を急ぐ。暫く林道を進むと、20 分ほどで小池新道入口に着き、ここからは登山道となる。小池新道は全体的に急な登りも少なく、整備された登山道のため比較的歩きやすい。しかし、大きな石の積み重なった道が多く、またそのためか高い樹木が少ないため日影が少ない。曇り空とはいえ、まだ高度も低いため蒸し暑く、休憩を取りながら秩父沢を目指す。間もなく秩父沢というところで、下山の IM さんと会えた。折立→雲ノ平→水晶のルートであったため、山や小屋の状況を聞かせてもらい、少し元気が出た。遅れ気味のペースであるが、秩父沢、シシドウヶ原と要所で休憩を取りながら 12 時前に鏡平に到着した。残念ながら相変わらずの曇り空で、鏡池に映る槍ヶ岳を見ることはできなかった。

鏡平から弓折岳分岐まで暫く急登が続く。これまでの石が多い登山道から、砂交じりのザレた登山道となる。急斜のため九十九折れとなっており、わずか 200m ほどの登りであるが、かなり堪えた。この急登を終え弓折岳をトラバース気味に分岐まで登れば、双六小屋まではほぼアップダウンがない。予定より 30 分ほど遅れて、双六小屋に到着した。平日だからなのか、コロナの影響なのか、キャンプ場は比較的空いている。先人のテントから少し距離を取り、設営完了。1 時間ほど早く出発したが、30 分ほどの遅れで到着、結果 1 時間半程度の遅れであった。　（記：OY）

CT：新穂高温泉 6:12 - わさび平 7:29 - 秩父沢 9:07 - 鏡平 11:56/12:27
- 双六小屋 15:12

8 月 4 日（火）　天候：晴れ

4 時半頃起床し朝食を摂り、早々にテントを撤収して双六小屋のテント場を後にする。まずは双六岳を目指し、小屋の水場横から登り始める。急登とまでは言わないが、それなりの登りで高度を稼ぐ。途中、三脚に一眼レフをセットして対面を眺めるカメラマンが居り、振り返ると槍ヶ岳が正面に見える。昨日からの天気の影響か、まだ曇り空で槍の穂先にも雲がかかっているが、その先はるか南西の方角は青空である。そのカメラマン曰く、太平洋高気圧が張り出し、青空の槍ヶ岳を写真に収めるのだという。天候は良化方向と確信し山頂を目指す。小屋からは 300m ほど登れば双六岳の頂上である。双六岳頂上は眺望が開け、槍穂はもちろん、笠ヶ岳や黒部五郎など見渡すことができる。この双六岳が本日の最高点で、三俣蓮華岳を経由して黒部源流まで降下する。三俣蓮華岳までは大きなアップダウンはないが、三俣蓮華岳から三俣山荘までは少し急な下りとなる。縦走装備での下りは膝に堪えたが、まだ前半戦ということもあり三俣山荘に到着した。山荘の手前、三俣蓮華岳方面にテント場があり状況を確認したが、大きな石などもなく平らな砂地が多い良いテント場であった。

三俣山荘で昼食休憩をとり、黒部源流を目指す。引き続き下りが続く。長かった梅雨のせいだろうか、源流までの登山道は沢のように水が流れていた。黒部源流では沢を渡渉するがここも水量が多い。沢幅は 7m 程度と思うが、大きな石が 5、6 個並んでおり、フィックスループが張られている。しかし、いくつかの石は水没している状態で、大きなザックを背負っての渡渉は多少の不安があったが、ロープ頼りに何とか渡りきれた。ここからはこの日の最大の難所となった。祖父岳の裾野を西回りに日本庭園を目指すのだが、沢から 200m ほどは大きな石が転がる急登を登らなければならない。手を使うほどの登攀ではないものの、気を抜くとザックの重さで谷へ引きずり落されそうになる。途中、休憩を取り何とか登りきると、黒部五郎岳を正面に見る素晴らしい景色が広がっていた。ここから祖父岳を右手に見ながら雲ノ平を目指すが、アップダウンもなく歩きやすい登山道である。祖父岳分岐付近からは雲ノ平全域が見渡せるが、前方には薬師岳、高天原、水晶岳など見渡せる中に、緑の広大な平地が広がる姿は楽園のようにも見えた。以前はこの分岐から雲ノ平キャンプ場へのルートがあったようだが、植生保護のために閉鎖されている。多少の遠回りをして、キャンプ場へ到着した。

この日は平日でありコロナ対策の予約も不要ではあったが、広いキャンプ場にかなりの数のテントが張られていた。設営地を探しながら中ほどまで入ると、ちょうど 1 人テントが張れるほどの空きがあった。早々に幕営し、山荘まで受付に行く。片道 15 分ほどかかる道のりではあるが、木道が整備されているため歩きやすく、緑豊かな楽園の散策で気分も和む。テントへ戻りビールを飲みながら景色を眺めているだけで、また心が癒された。しかし、この日に日本庭園を通過したはずだが、残念ながら記憶に残っていない。　　（記：OY）

CT：双六小屋 6:32 - 双六岳 7:52 - 三俣蓮華岳 9:28 - 三俣山荘 10:23/10:47
- 黒部源流 11:20 - 雲ノ平キャンプ場 13:57

8 月 5 日（水）　天候：晴れ

朝 4:30 に起きると、テント入口からは月明かりに照らされた薬師岳が飛び込んできた。またいつかこの地を訪れ、薬師岳や黒部五郎岳を巡ることを心に決めた。少しのんびりと朝食を摂り、テントの撤収をしていると、周りの方々はどんどんと出発して行く。さすがに奥地だけあり、皆早出である。まずは祖父岳を目指して、雲ノ平を後にした。祖父岳分岐まで来た道を戻り、分岐からは 150m 程の登りとなる。高度を上げるにつれ緑が少なくなり、赤茶けた火山帯に見られる石が多くなる。多少の九十九折れを登れば、祖父岳山頂に到着する。山頂からの景色は最高で、雲ノ平を見下ろし、辺りの高峰を見渡すことができる。

祖父岳からは岩苔乗越まで少し下り、ワリモ北分岐まで登り返す。といっても高低差はさほどなく、すぐに分岐に辿り着く。水晶岳方面と鷲羽岳方面への分岐となる為、ザックが数個デポされていた。水晶小屋で昼食を摂る予定であったため、ザックは担いで水晶小屋を目指したが、やはり体力を温存するために途中でデポすることにした。水、行動食、雨具、非常用品だけを詰めたアタックザックは嘘のように軽く、登坂が非常に楽になった。水晶小屋で一休みしたのち、難なく水晶岳山頂を踏むことができた。山頂からは黒部湖、その先の立山、剱岳をも見ることができた。残念ながら、水晶のかけらは発見できなかった。

水晶小屋へ戻り昼食を摂った後、鷲羽岳を目指す。途中、デポしていたザックを回収し、再び重いザックを担ぐことになるが、この日は大きなアップダウンはない、と自分に言い聞かせ先を急ぐ。分岐からワリモ岳は 30 分ほどで、比較的容易に到着できる。しかし、ピークとピーク間には必ずコルがあり、下らなければならない。少し急な下りが終わると、鷲羽岳への登りとなる。この日最後の登りと自分に言い聞かせ歩を進める。最後、少し急な登りとなり、九十九折れで高度が上がらないが、地道に歩を進め頂上へ到着した。

鷲羽岳からは三俣山荘まで下りとなる。頂上から暫くは少し急な道となるが、砂利というか砂というか、非常に滑りやすい登山道で、慎重に足を置くためタイムは稼げない。200m 程下りたあたりから斜度も多少緩やかになり、歩きやすくなる。そして、この辺りからこの日の泊地、三俣山荘も視界に捉えられる。テント場もそれほど混んでいないようだ。ひと踏ん張りして山荘に到着する。先にテント場へ行き、テントを設営する。この日も運よく、ちょうど 1 人用が張れる砂地に空きがあり、設営したのちビールでのんびり過ごすことができた。

（記：OY）

CT：雲ノ平 6:28 - 祖父岳 7:37 - ワリモ北分岐 8:36 - 水晶小屋 9:19/9:31
- 水晶岳 10:01 - 水晶小屋 10:35/11:06 - ワリモ北分岐 11:41
- ワリモ岳 12:11 - 鷲羽岳 12:58 - 三俣山荘 14:30

8 月 6 日（木）　天候：晴れ

夜に多少の雨が降ったが、朝は晴天であった。この日は新穂高温泉までの下山で、大きな登りはないものの、距離が長いため予定通りの行動を心がけた。朝食後に撤収し、予定通り 6:00 に出発する。往路で双六岳を経由しているので、下りは巻道ルートとした。三俣峠まで登ったのちは、三俣蓮華岳と双六岳を西に見ながら、なだらかな下りとなる。距離はあるが予定通りに双六小屋へ到着する。

双六小屋から鏡平の途中に、突然開けた平地が現れる。花見平というらしいが、ここからの槍穂も最高の眺めである。双六小屋からの西鎌尾根、穂高方面に延びる大キレット、その先に見える奥穂とジャンダルム、槍ヶ岳から続く尾根がくっきりと見える。名残惜しいが下山を急ぐ。鏡平手前の急な下りが多少辛いが、予定通りに鏡平山荘へ到着し昼食とした。この日も暑かったためか、かき氷が大人気のようだ。喉から手が出るほど食べたかったが、バテないようにカレー（自分にとってはかなり大盛）を頬張り、体力を回復する。ふと槍ヶ岳方面を見ると、先ほどまで晴れていた空に雲が出始めている。慌てて支度し鏡池へ移動したが時遅し、槍ヶ岳は雲の中であった。

鏡平からの小池新道は、往路でもそうであったが、木陰が少なく陽を浴び暑い。シシウドヶ原、秩父沢、ワサビ平小屋など要所で休憩を取りながら、ほぼ予定通り新穂高温泉へ下山することができた。鏡池に映る逆さ槍を見ることはできなかったが、天候に恵まれ、奥深く静かな北アルプスの山々を眺めることができ、最高の山行となった。　（記：OY）

CT：三俣山荘 6:00 - 双六小屋 8:24 - 鏡平山荘 10:26/10:53
- 秩父沢 12:21 - ワサビ平小屋 13:19 - 新穂高温泉 14:25